

神戸大学発達科学部
卒業生アンケート結果報告書

2013 年 5 月

神戸大学発達科学部自己評価委員会

目 次

I. 調査の概要	1
II. 入学時の希望と期待	1
III. 学部教育と学生生活への評価	2
IV. 学部の優れている点と今後の期待	6
V. 学部の職業人・人材養成	8
VI. 学科・専門系別の特徴	13
VII. 卒業年次別の特徴	16
VIII. 総括	20
アンケート用紙	23

I. 調査の概要

本調査の目的は、発達科学部発足 20 周年に向け、卒業生から率直な意見を聴取し、本学部教育の到達点と課題を明確にすることにある。

本調査は、2012 年 3 月までに発達科学部を卒業した 4490 名（女性 58%、男性 42%）の中で連絡先が確認できる 3450 名（77%）を対象として、2012 年 7～9 月に郵送アンケートの方法で実施した。回答者は 751 名（女性 68%、男性 31%、不明その他 1%）、郵送者に占める回収率は 22%である。

II. 入学時の希望と期待

まず入学時、本学部に対し、どのような希望・期待をもっていたかをみる。

本学部への進学を「たいへん希望していた」人は 51%、「希望していた」人は 40%に達する（図 1）。

入学時の期待としては、「専門的な知識を得ること」（68%）、「総合的な知識・ものの見方を身につけること」（55%）、「人間的に成長すること」（49%）、「友人を得ること」（47%）、「豊かな教養を身につけること」（45%）、「将来について考える時間や契機を得ること」（43%）、「資格・免許を取得すること」（39%）、「人間・発達・環境・スポーツ・芸術などへの興味・関心を深めること」（38%）、「社会的視野や経験を広げること」（38%）、「部・サークル活動（全学を含む）に参加すること」（33%）を多くの人があげている（図 2）。

総じて、人間・発達・環境等に関する専門的・総合的な知識を学び、あわせて友人・社会的視野・経験・教養を得て、自らの人間的成長を図り、将来を模索しようとする新入生の姿が浮かび上がる。

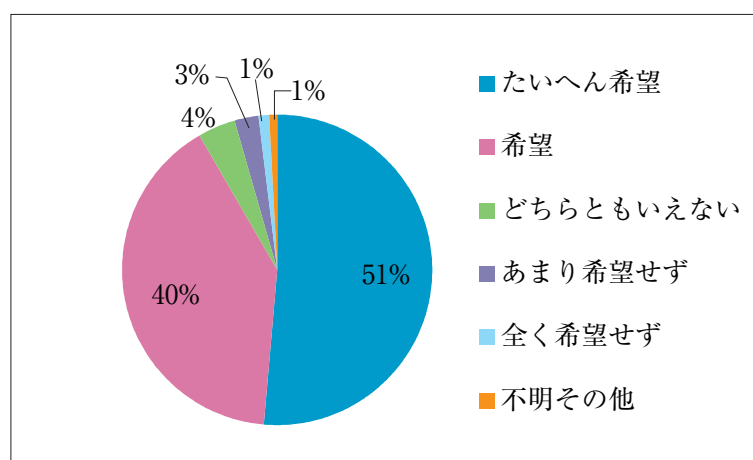


図 1 入学時の希望

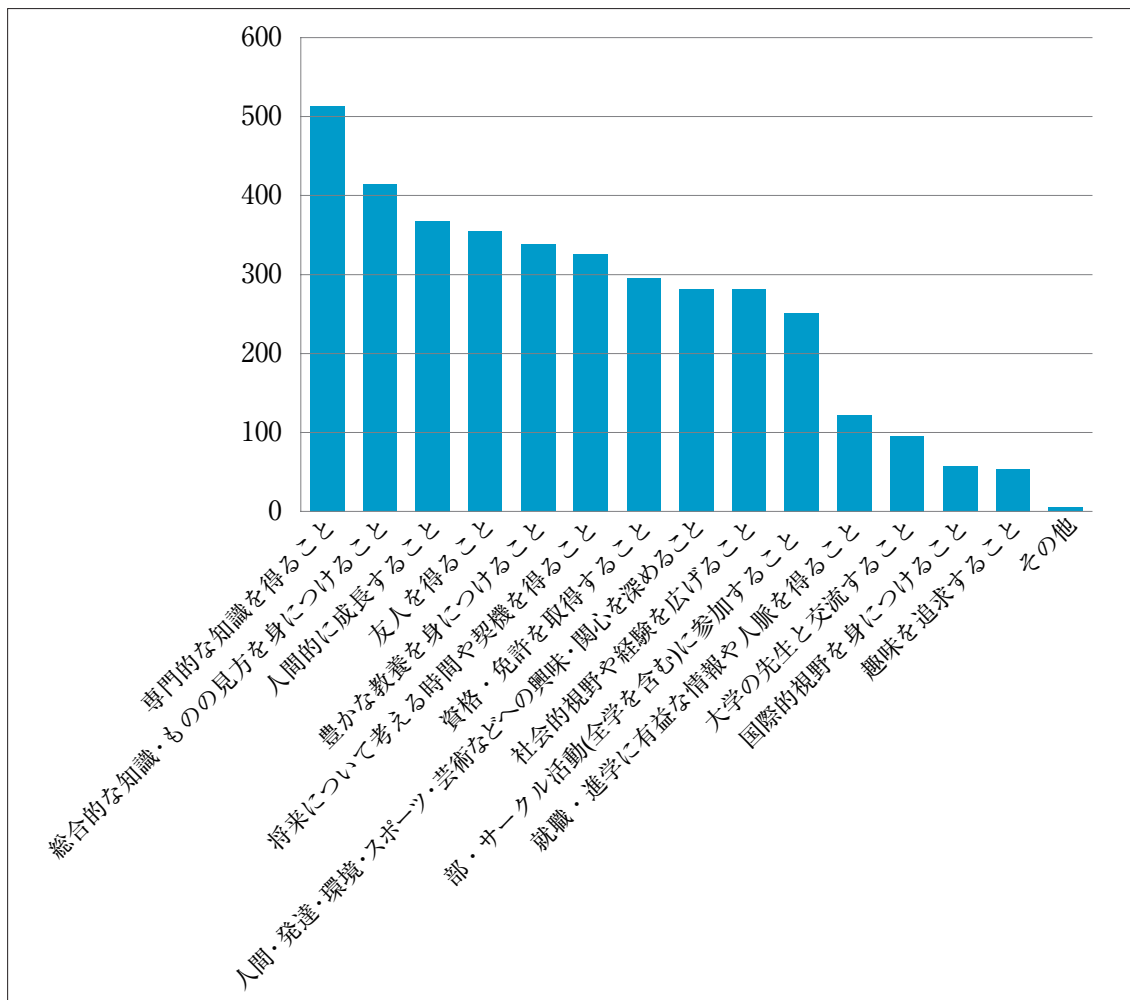


図2 入学時の期待 (人)

Ⅲ. 学部教育と学生生活への評価

では、卒業生は学部教育・学生生活をどのように評価しているのだろうか。

学部教育について、「たいへん満足できた」が16%、「だいたい満足できた」が61%を占める(図3)。

学生生活については、「たいへん満足できた」が30%、「だいたい満足できた」が55%である(図4)。

「神戸大学発達科学部を卒業してよかったと思いますか」との質問に対しては、「非常に思う」が37%、「思う」が51%で、肯定的評価が全体の9割弱に達している(図5)。

学部の授業については、卒業生の過半数が、「人間・発達・環境・スポーツ・芸術等への興味・関心が深まる授業」(64%)、「新たな興味・関心が喚起される授業」(60%)、「他学部にはない特色ある授業」(60%)、「専門的に深みのある授業」(56%)、「内容がよくわかる授業」(56%)、「総合的な知識・ものの見方が身につく授業」(55%)、「少人数・

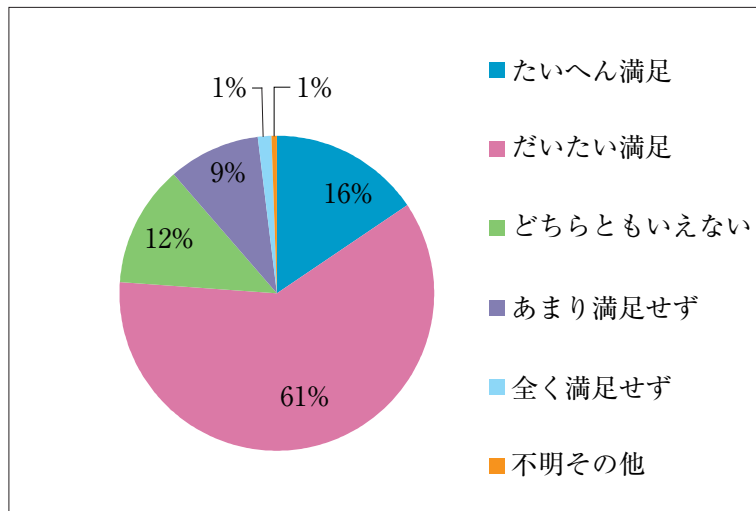


図3 学部教育の評価

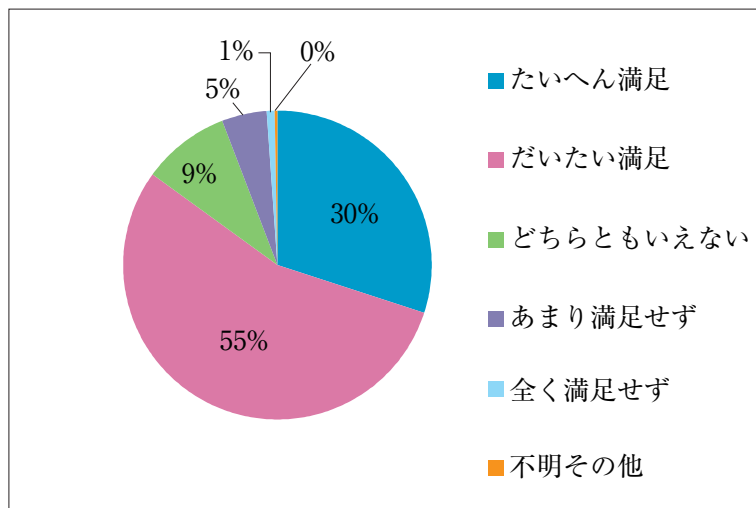


図4 学生生活の評価

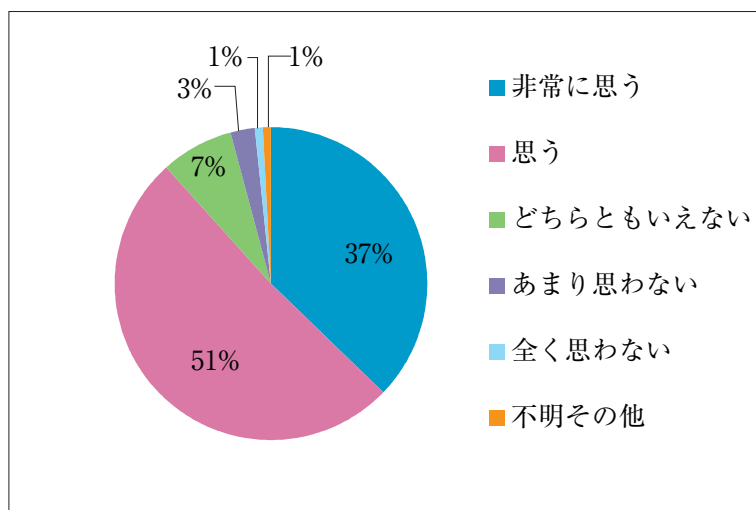


図5 発達科学部を卒業してよかったか

対話型の授業」(54%)、「先生の熱意が感じられる授業」(54%)が、「非常に多かった」または「多かった」と答えている。「豊かな教養が身につく授業」(46%)、「学習意欲が喚起される授業」(44%)、「新しい学問領域を開拓する意欲が喚起される授業」(35%)、「仕事・研究に役立つ授業」(30%)が、これに準じている(図6)。

学生生活については、多くの卒業生が、「よい友人を得られた」(85%)、「人間的に成長できた」(75%)、「社会的視野や経験を広げることができた」(72%)、「充実した部・サークル活動(全学も含む)ができた」(58%)、「大学の先生と交流を深めることができた」(59%)について、「非常に思う」または「思う」を選択している。また、「資格・免許が取得できた」(50%)、「将来の目標をみつけることができた」(48%)も、これに準じている(図7)。

こうした学部教育・学生生活に対する現時点の評価を、入学時の期待と比較すると、次のような特徴が見て取れる(図8)。

まず第1に、入学時の期待が高く、しかも現時点の評価がそれより一層高かった要素は、「人間・発達・環境等への関心の充足」、「社会的視野・経験」、「人間的成長」、「友人」、「部・サークル活動」、「将来について考える時間・機会」、「資格免許の取得」、「豊かな教養」である。「総合的な知識・ものの見方」もそれに準じる。総じて本学部の教育・学生生活は、入学時の期待に十分に応えることができているといえよう。

第2に、入学時の期待は少ないが、現時点の評価が高かった要素は、「大学の先生との交流」、「趣味の追及」である。教員との交流の多さは、少人数・対話型教育を重視する本学部の特徴の一つであろう。

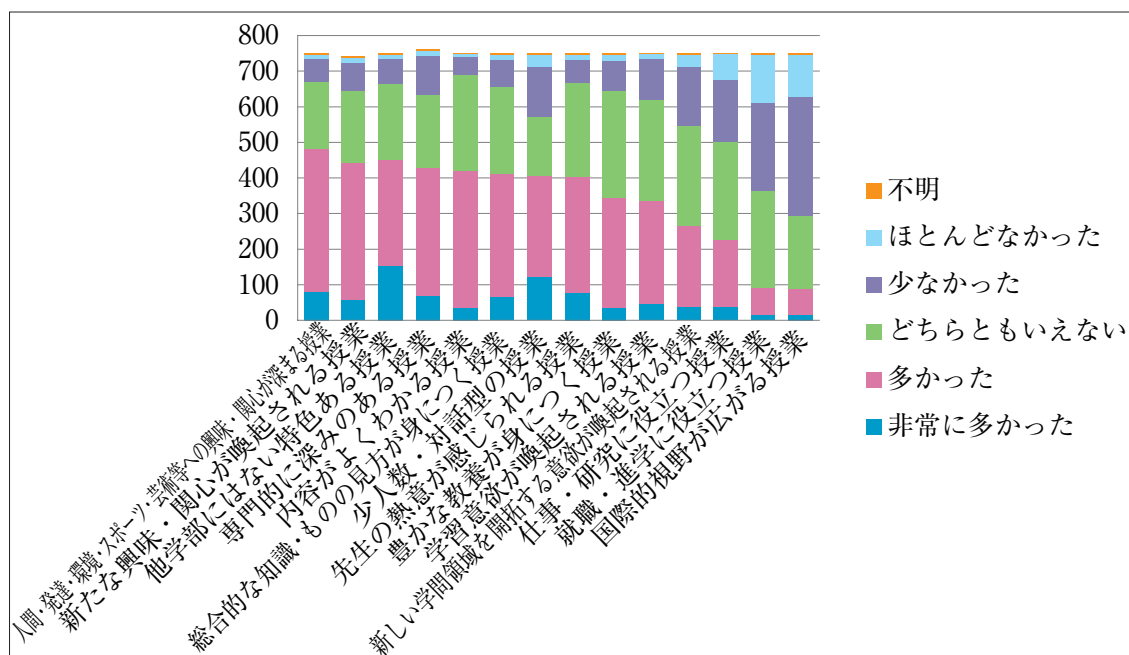


図6 授業の評価

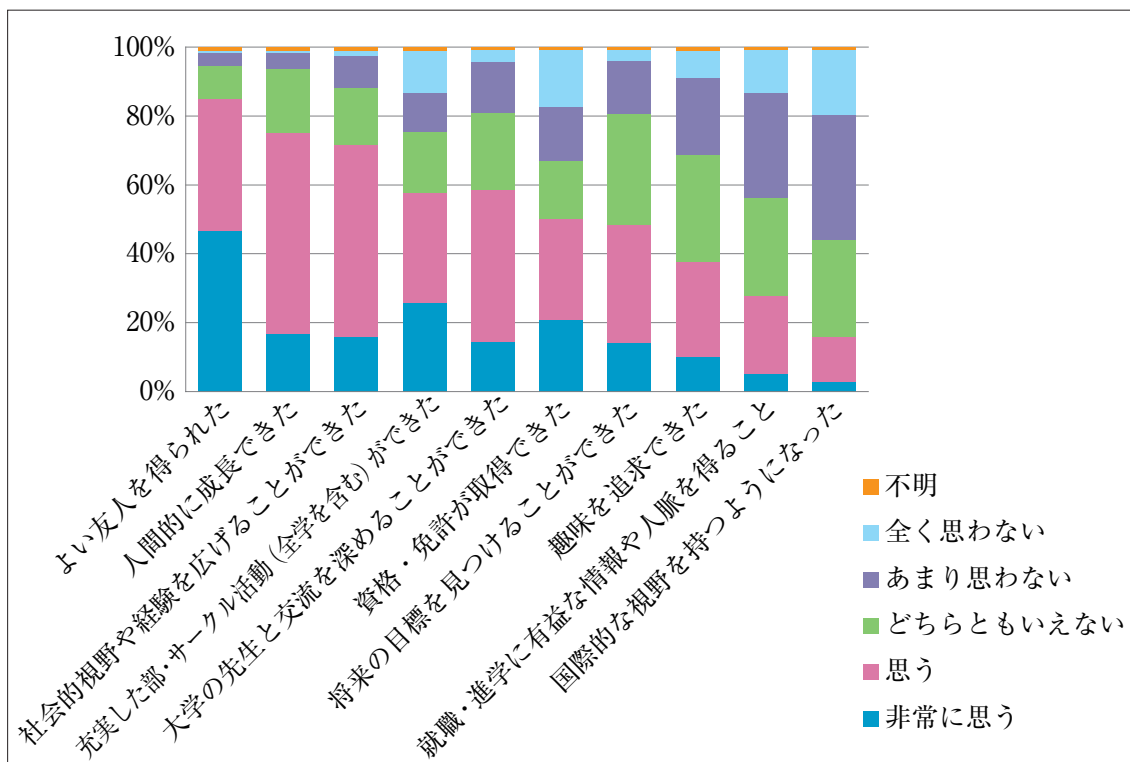


図7 学生生活の評価

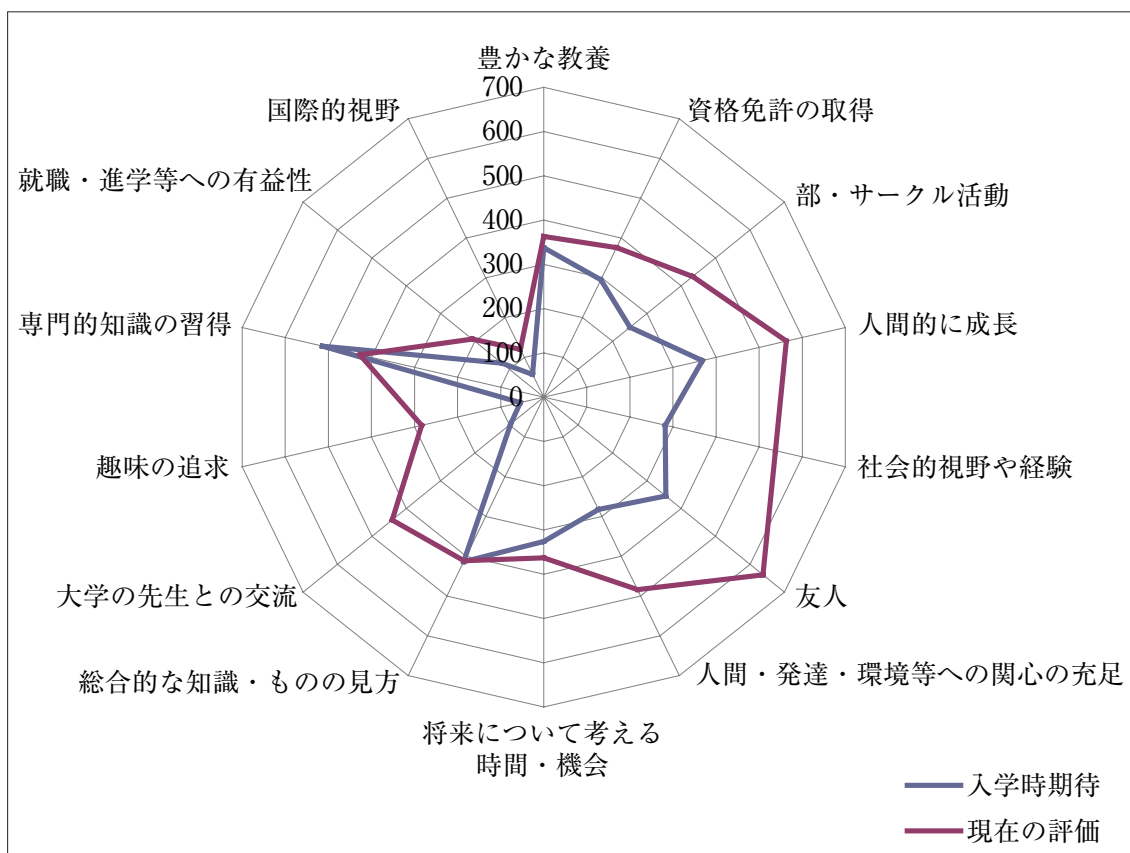


図8 入学時の期待と現在の評価 (人)

第3に、入学時の期待に比べ、現時点の評価がやや低かったのが、「専門的知識の習得」である。もとより前述のように、「専門的に深みのある授業が多かった」との声は過半数を占める。しかし入学時に「専門的知識の習得」を期待していた学生数に比べると、それを現時点で実感している卒業生の人数はやや少ない。今後、発達科学としての固有の専門性の一層の深化・確立が求められているといえよう。

第4に、入学時の期待が少なく、また現時点の評価も低かった要素は、「国際的視野」、および「就職・進学等への有益性」である。ただしこのいずれも、入学時に期待していた学生数より、現時点で実際の教育等でそれらを得られたと評価している人数の方が若干多い。また現時点の評価において、「就職・進学に役立つ授業」が多かったとの回答は1割強にとどまるが、「仕事・研究に役立つ授業」が多かったとの回答は3割とやや多い。本学部の卒業生の場合、国際的視野それ自体が目的というより、あくまで人間・発達・環境等の専門性に関連した国際的視野を重視している。また就職等に直結した道具的・手段的な技術・ノウハウというより、むしろ人間に関する本質的な知・視野・洞察力の習得・形成を重視している。それゆえ、入学時の期待より、実際に教育を受ける中で、国際的視野や仕事・研究等との関わりが、より明確に認識されてきたようである。

IV. 学部の優れている点と今後の期待

次に、他大学・他学部と比べ、本学部の優れている点、および本学部への今後の期待についてみよう。

本学部の優れている点として、多くの人が、「教育面（講義、演習、ゼミ、卒業研究など）」（37%）と「雰囲気」（46%）をあげている。また「教育スタッフ（教員、ティーチング・アシスタントなど）」（26%）と「人間性の尊重・重視」（28%）も、これに準じる（図9）。

一方、「就職・進学の有利さ」（6%）、「図書館」（6%）、「施設・設備」（3%）、「学生への配慮・サービス」（3%）、「国際性」（2%）等は優れているとはみなされていない。

今後に期待することとしては、「教育面の改善」（52%）、「就職・進学への支援の改善・充実」（46%）、「発達科学部の認知度・知名度の向上」（44%）、「施設・設備の充実」（37%）、「教育スタッフの充実」（36%）、「研究の進展」（34%）をあげる人が多い。「国際性の促進」（33%）や「図書館の充実」（31%）もそれに準じる（図10）。

一方、今後への期待が比較的少ないのは、「学部の理念・教育方針の見直し・改革」（8%）、「人間性の尊重・重視」（6%）、「ボランティア・サークル活動の拡充」（5%）、「雰囲気の改善」（4%）等である。

優れている点と今後の期待を比較すると、次のような特徴がみてとれる（図11）。

まず第1に、優れていると高く評価され、しかも今後の期待がさらに一層大きい要素は、「教育面」、「教育スタッフ」である。「図書館」もこれに準じる。これらはいわば教

育の最も基礎・基本となる諸要素である。

第2に、優れていると高く評価され、今後の期待は比較的少ない要素は、「雰囲気」と「人間性の尊重」である。これらについては、現状への満足度が高いといえよう。

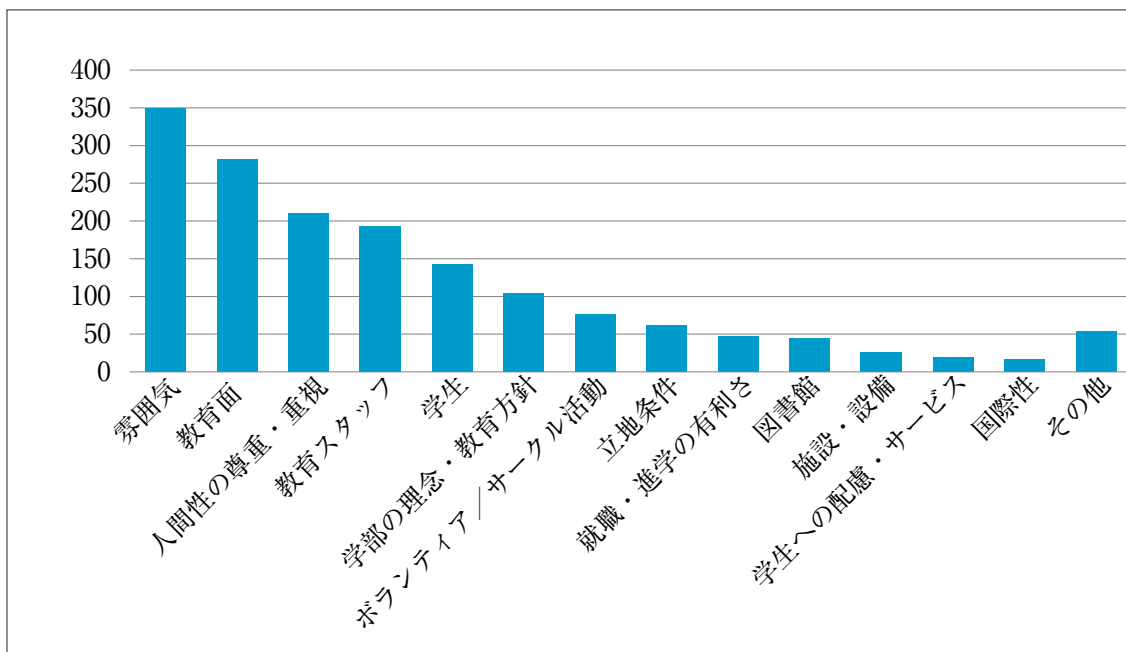


図9 他大学・他学部より優れている点（人）

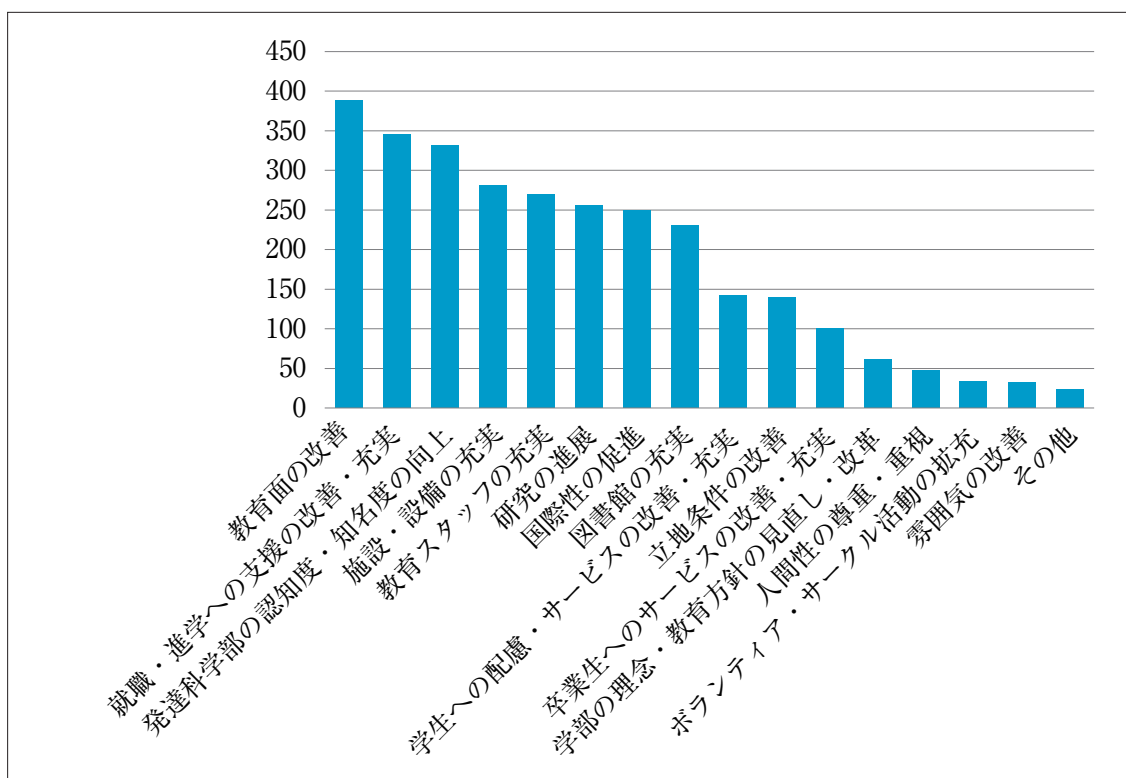


図10 学部に今後期待すること（人）

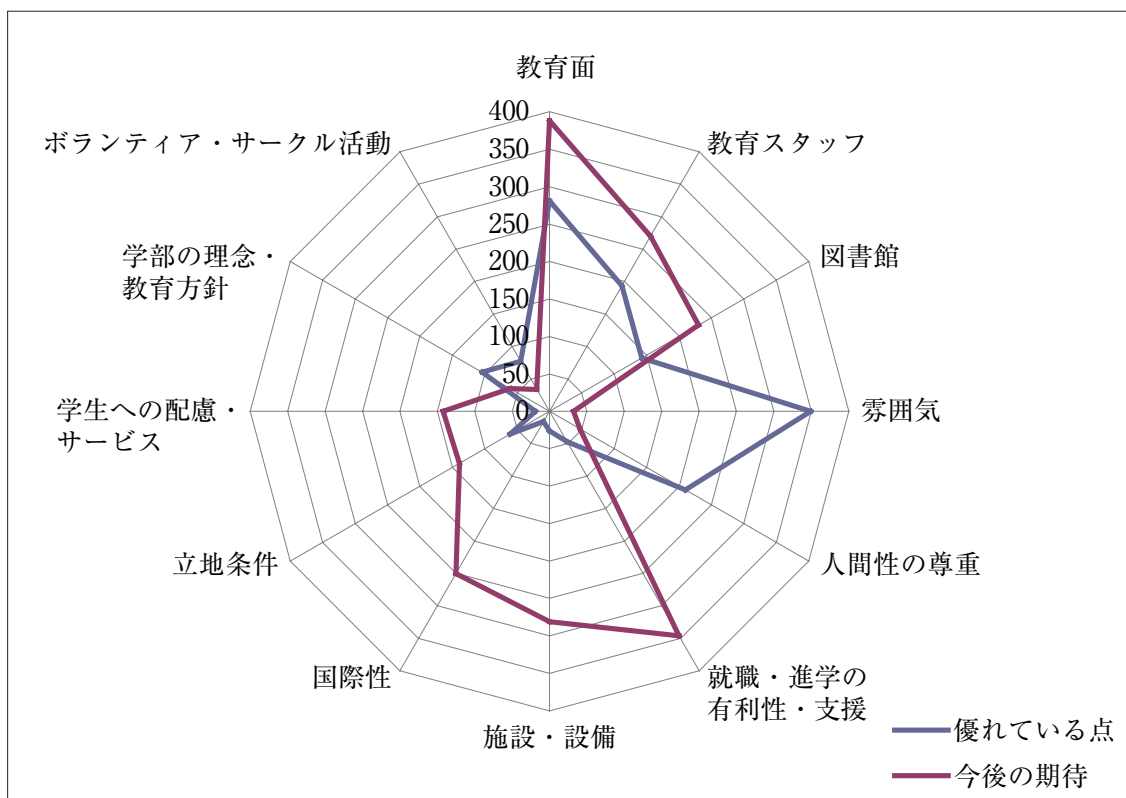


図 11 優れた点と今後の期待 (人)

第3は、優れているとは評価されず、今後への期待として多く選択されている要素が、「就職・進学の有利性・支援」、「施設・設備」、「国際性」である。これらの要素は、現状では本学部教育の一種の弱点であり、今後、積極的・意識的な取り組みが求められる諸課題であろう。

そして第4は、優れている点・今後の期待の双方で選択が少ない要素が、「学生への配慮・サービス」、「学部の理念・教育方針」、「ボランティア・サークル活動」等である。

V. 学部の職業人・人材養成

では次に、本学部の教育が卒業後の社会生活にどのように生かされているかをみよう。学部で学んだ内容が、現在の仕事に「直接に役立っている」人は25%、「間接的に役立っている」人は43%で、合わせて7割弱を占める(図12)。

現在の雇用形態は、「常勤(自営を含む)」が72%、「フリーランス・非常勤」が9%、「パート・アルバイト・派遣」が5%、「大学・大学院(専門学校等も含む)に在学中」が6%、「とくに働いていない」が7%である(図13)。

現在の職業は、民間企業等への勤務が46%、教員が23%、そして公務員(教員を除く)が17%と大別しうる(図14)。

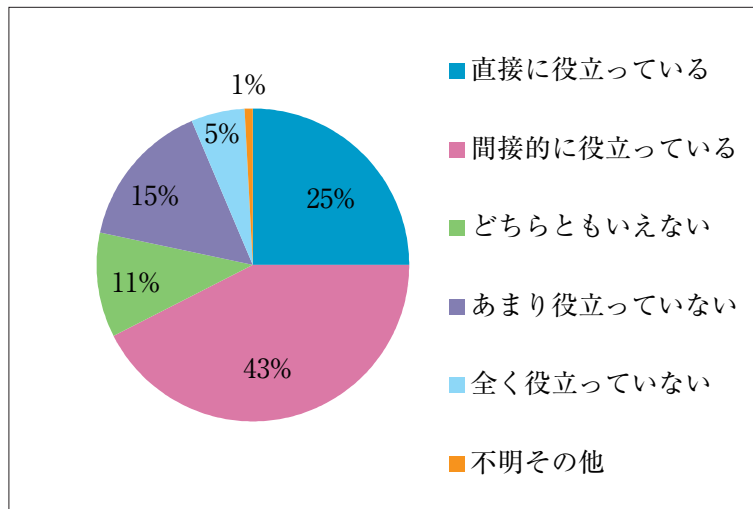


図 12 現在の仕事に役立っているか

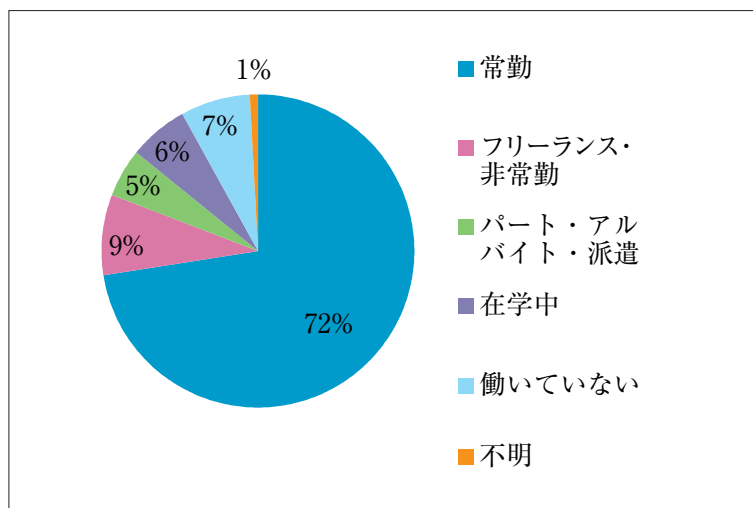


図 13 現職 1

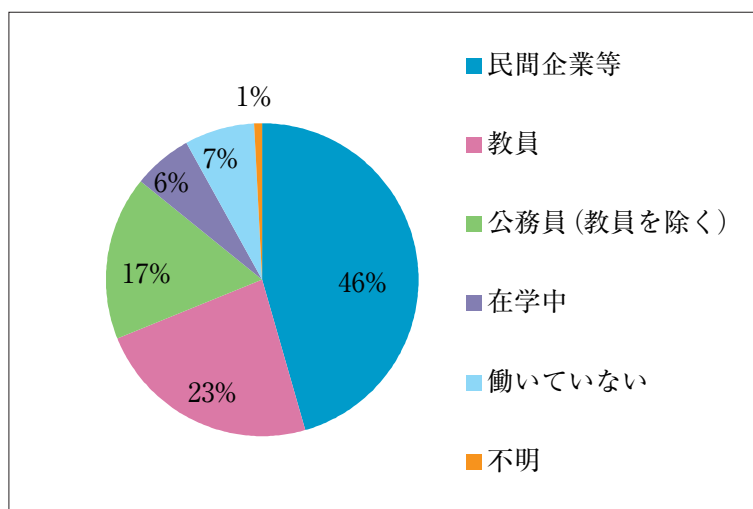


図 14 現職 2

さらに具体的な仕事内容にまで立ち入って複数回答で分析すると、下記のような特徴が浮き彫りとなる（図 15）。

①教員、福祉関係、人事・教育関係など、人間に直接、しかも幅広い視野をもって関与する「人間系」の仕事につく人が、有職者の 44%（全体の 38%）と多い。

②公務員、NPO／NGO、マスコミなど、社会全体の公共的利益のために働く「公共系」の仕事につく人も、有職者の 29%（全体の 25%）と多い。

③自由業や企業の企画部門など、発想力や構想力、調整力などが求められる「企画系」の仕事につく人も、有職者の 11%（全体の 10%）を占める。

④広報・宣伝、情報産業、マスコミ・出版・広告など、情報や表現に関わる「表現情報系」の仕事につく人も有職者の 14%（全体の 12%）を占める。

それ以外に、⑤「研究系」（研究・技術職）、⑥コミュニケーション系（営業販売・サービス職）、⑦「経営管理系」（自営商工業、起業者・企業経営、管理職）の仕事につく人も一定の位置を占める。

以上の「人間系」、「公共系」、「企画系」、「表現情報系」、「研究系」、「コミュニケーション系」、「経営管理系」はいずれも、発達科学部の教育内容と深く関連した仕事といえよう。そしてこうした 7 つの系の仕事についている人は、有職者の 82%（全体の 71%）に達している。発達科学部は、主にこうした諸領域に人材を送り出しているといつてよい。

またこのことは、発達科学部の卒業生が、①～⑦の各系の仕事に必要な資質を濃淡の差はあれど共有していることを示唆している。

たとえば教師になったとしても、数学・社会など特定の専門科目教育だけでなく、人間性・公共性・創造性・表現力・コミュニケーション能力等といった資質を備えた教師像である。いじめ・不登校等が頻発する現在の学校教育において、こうした教師の資質は、極めて貴重なものといえよう。在学時から、卒業後はいったん教職以外の仕事で社会経

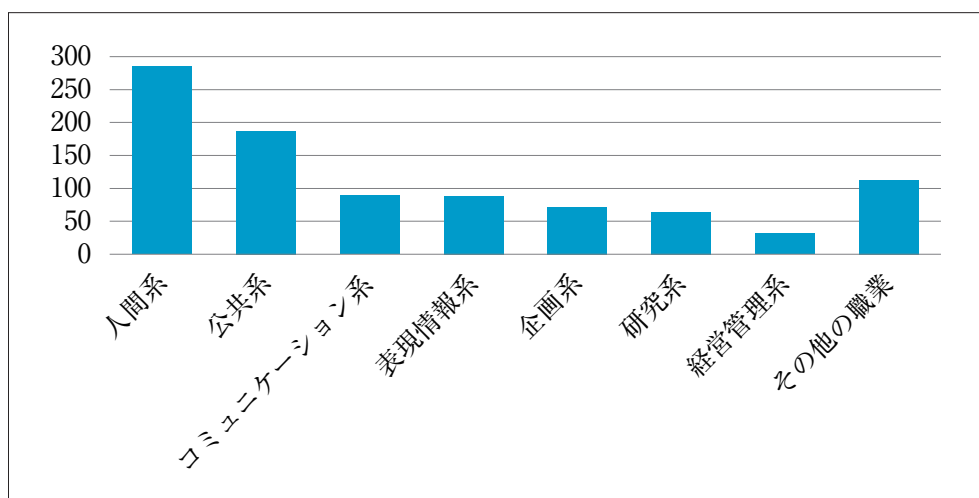


図 15 現職 3（複数選択・人・有職者）

験を積んでから、数年後に教職に就こうと考え、それを実践した卒業生も複数みられる。

こうした特徴は、教職免許の取得やその生かし方にも現れている。在学中、教職免許を取得した人は46%を占める（図16）。現在、教員として働いている人は23%である。いわば在学中に教職免許を取得した人のうち、約半数は教員以外の仕事についている。そして現在、教員として働く人は、ほとんどが「免許・資格が役立っている」と答えている。特に「直接に役立っている」との答えが多い。しかしその一方、教職免許を取得したが、現在、教員以外の職業についている人の中でも、「免許・資格が役立っている」との回答は63%に達する（図17）。特に「間接的に役立っている」と答えた人が多い。免許取得が「あまり／まったく役立っていない」と答えた人は、免許取得者の14%にとどまる（図18）。

総じて、教職免許取得やそれに向けた学習は、発達科学の知見を生かした前述の①～⑦の各系の仕事の遂行に、直接・間接に生かされているのである。自由回答欄には、「発

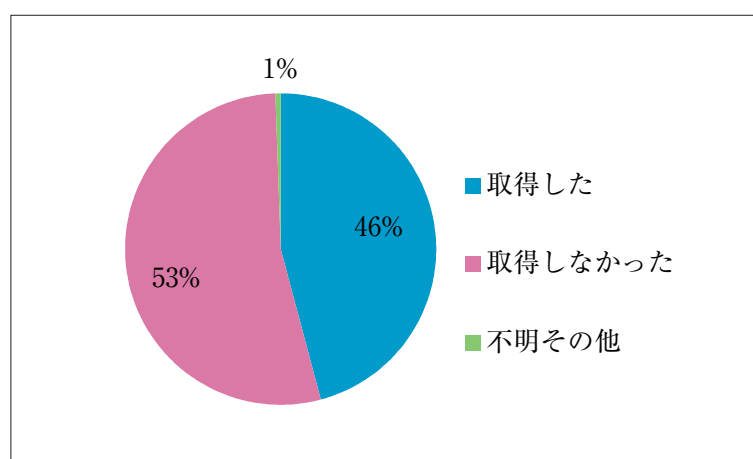


図16 在学中の教職免許取得

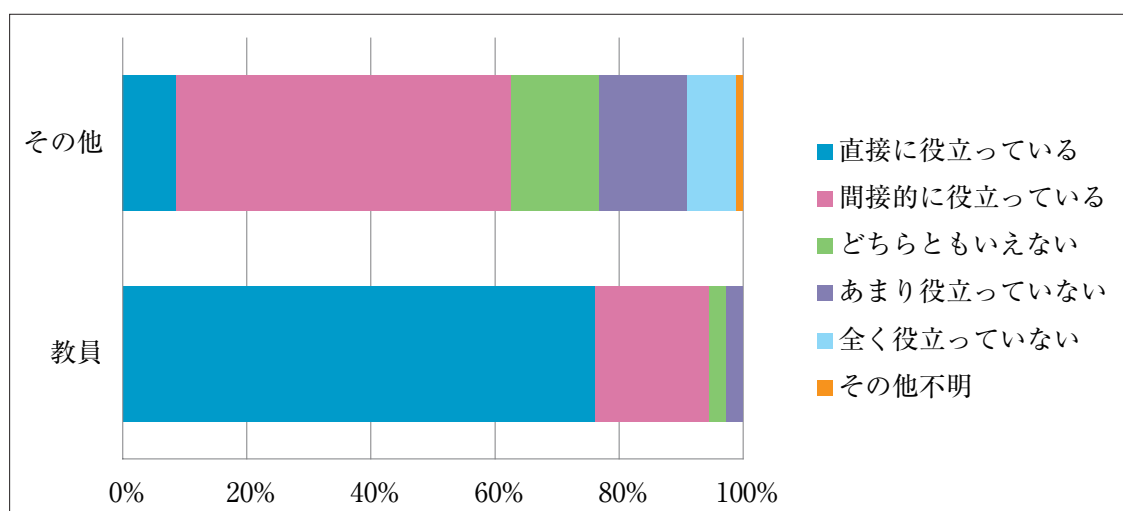


図17 教員免許取得者・役立っているか

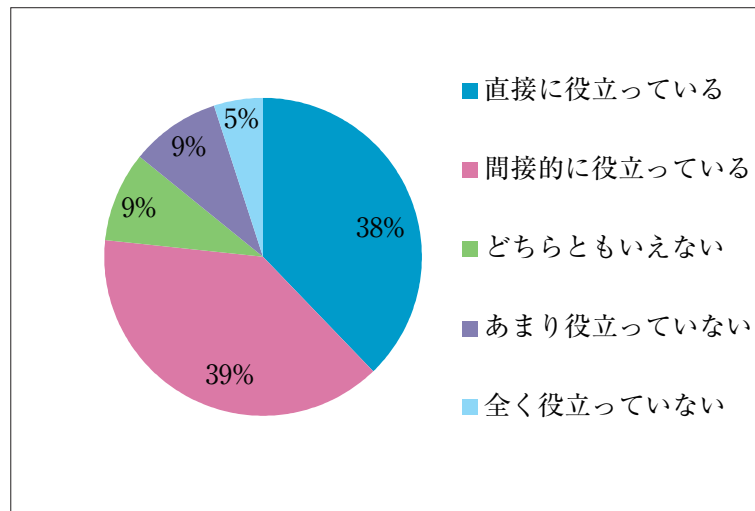


図 18 教員免許取得者・役立っているか

達科学部で養うことのできる一番のスキルは視野の広さとバランス感覚だと思う。…また多くの専門が乱立する中でその橋渡しになるのが教員免許だと思う。今の職業に直接関与していないが、家庭科教員免許を取得してよかった」、「発達科学部を卒業した教員は非常にバランス感覚が優れており、教育で最も大切なことを常に捉えていると感じる。これは大学で多くの先生方が多様な視点で、時に批判的に教育を研究されているからだと思う。他大学とは異なる神大の『教育』に対する捉え方（特に発達という視点）は誇れるものと感じている」といった記述がみられる。

さらに、こうした職業上の特徴は、学部教育だけでなく、大学院でのより発展的な教育・研究・高度職業人への志向にも連鎖している。全体の 20%が「人間発達環境学研究科（大学院）（または総合人間科学研究科）を修了・在学中」であり、9%が同研究科で「学習や研究をしたいと思っている」（図 19）。卒業した学部と連結した大学院への進学希

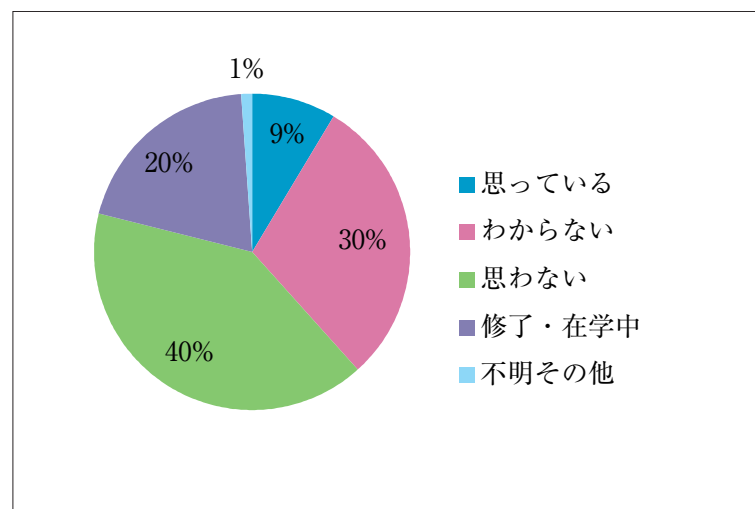


図 19 人間発達環境学研究科への進学希望

望者が約3割を占めるという事実は、神戸大学の人文・人間系の他学部に比べても、発達科学部の一つの大きな特徴といってよい。

Ⅵ. 学科・専門系別の特徴

では次に、学科・専門別の特徴をみる。

本調査の回答者が入学した学科は、下記の通りである。

- ・ 1992～2004年度入学：①人間発達科学科（295人）、②人間環境科学科（187人）、
③人間行動・表現学科（115人）
- ・ 2005年度以降入学：①人間形成学科（56人）、②人間行動学科（22人）、
③人間表現学科（16人）、④人間環境学科（51人）
- ・ 不明（9人）

これらの各学科を、統計分析に耐え得る各カテゴリーの人数確保、および専門性の重視という2つの観点から分類すると、次の3つの専門系が得られる（図20）。

- ①人間形成系（人間発達科学科＋人間形成学科）（47％）
- ②行動・表現系（人間行動・表現学科＋人間行動学科＋人間表現学科）（20％）
- ③人間環境系（人間環境科学科＋人間環境学科）（32％）

こうした3つの専門系毎に分析すると、まず重視すべき特徴は、多くの回答項目について、各系の差異があまりみられないことである。すなわち多くの側面・要素で、専門系の違い以上に、発達科学部卒業生としての共通性の方が大きい。

それを前提とした上で、以下、3つの専門系で比較的顕著な差がみられた点に限って述べる（図21～24）。

まず人間形成系の回答者は、女性が約8割と多く、入学時には「専門的知識」・「資格免許」への期待が特に高かった。授業については、「専門的知識」、「学習意欲の喚起」、「仕

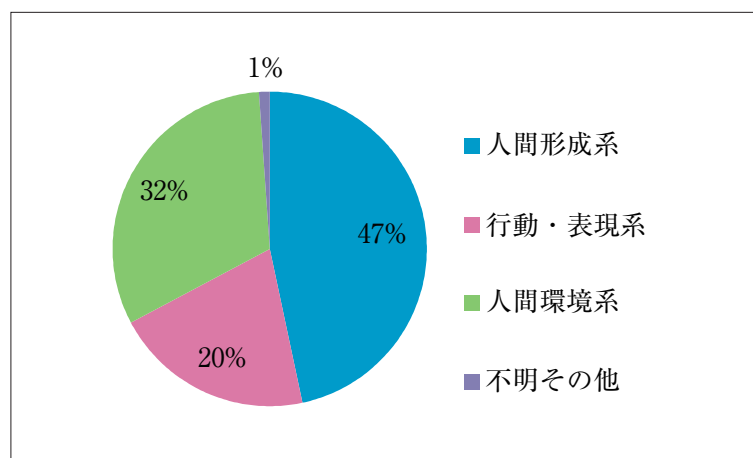


図20 専攻別

事・研究に役立つ」、「内容がよくわかる」といった評価が特に多く、「図書館拡充」への期待が高い。現在の職業は、「人間系」と「公共系」が特に多い。

これに対し、行動・表現系の回答者も、7割以上が女性である。入学時には「専門的知識」・「資格免許」に加え、「人間等（スポーツ・芸術等）への関心」への期待が高かった。授業については、「人間等への関心」、「他学部にない特色」、「少人数対話型」への評価が特に高く、学生生活では「趣味を追求できた」との回答が多い。今後の期待としては、「施設・設備の充実」と「研究の進展」が多い。現在の職業は、「表現情報系」

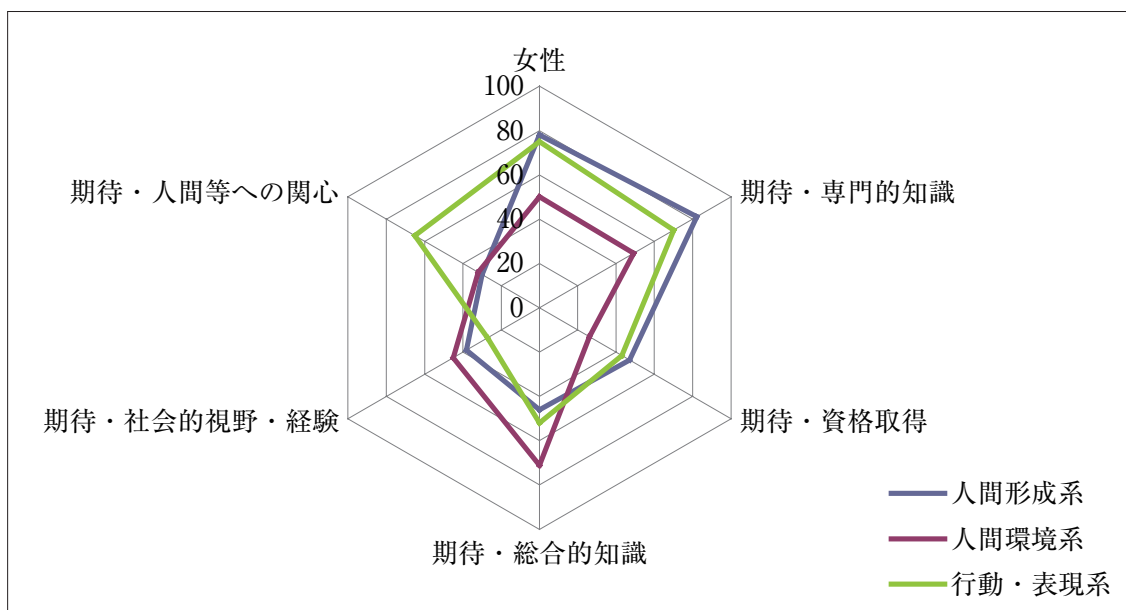


図 21 性差・入学時の期待 (%)

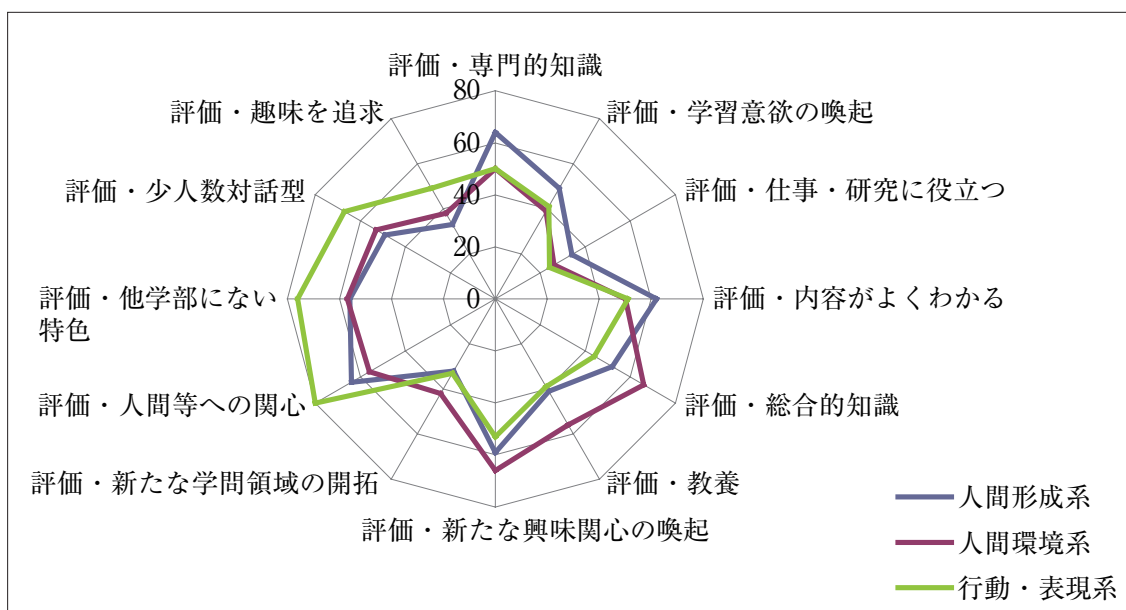


図 22 学部教育・学生生活の評価 (%)

や「企画系」が目立つ。

最後に人間環境系の回答者は、男性が約6割と多い。入学時には「総合的知識」、「社会的視野・経験」等への期待が高かった。授業については、「総合的知識」、「新たな興味関心の喚起」、「新しい学問領域の開拓」、「教養」への評価が特に多い。また発達科学部の優れている点として、「学部の理念・教育方針」をあげる声も多い。今後の期待としては、「研究の進展」・「認知度向上」等が特に多い。現在の職業は、「公共系」・「表現情報系」が多くみられる。

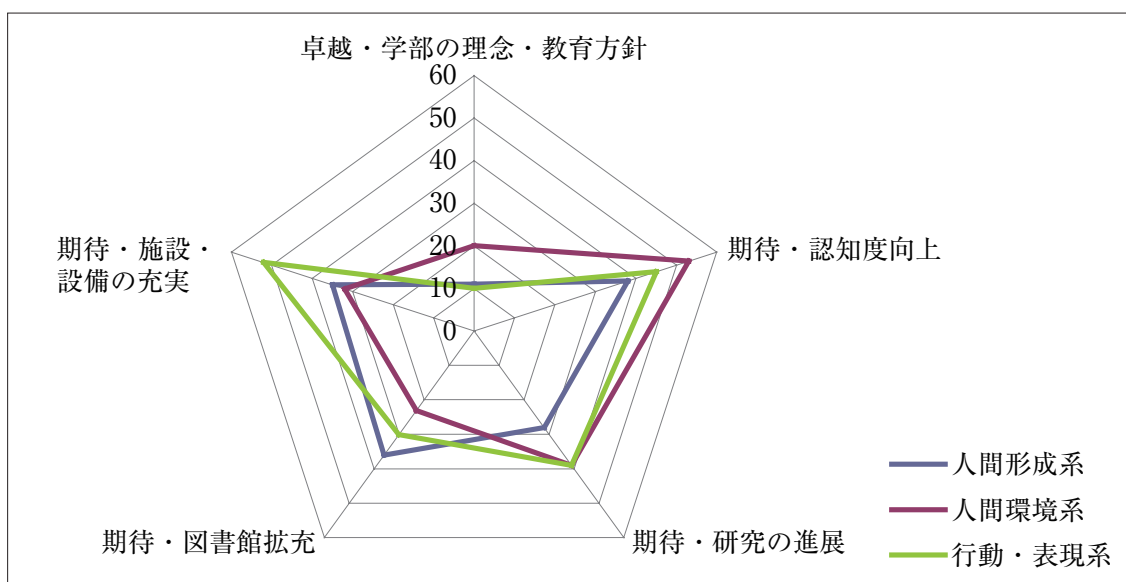


図 23 優れている点・今後の期待 (%)

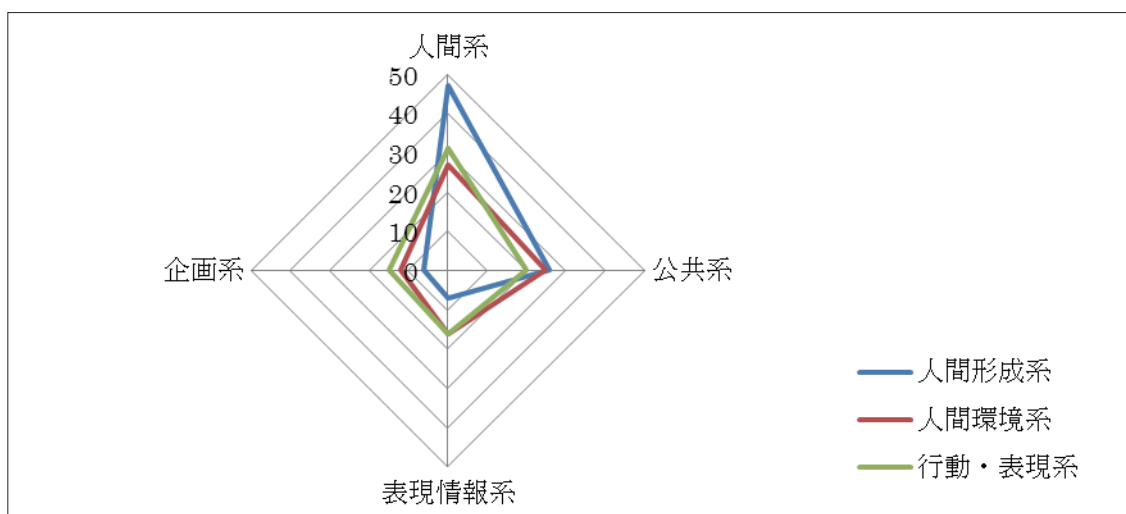


図 24 現職 (%)

Ⅶ. 卒業年次別の特徴

最後に、卒業年次別の特徴を分析する（図 25 ～ 27）。

本調査の回答者の卒業年次は、1997 年～ 2012 年に幅広く分散している。

ここでは、2005 年度の学科再編、および前回（2003 年 12 月～ 2004 年 1 月）の卒業生アンケート実施をふまえ、下記の類型を設定する。

第 1 期：1997 年～ 2003 年までの卒業生。学科再編以前の入学者で、前回アンケートの対象者でもある。回答者全体の 41% を占める。

第 2 期：2004 年～ 2008 年までの卒業生。学科再編以前の入学者で、前回アンケート実施以降の卒業生である。回答者の 33% である。

第 3 期：2009 年以降の卒業生。大半が学科再編以降の入学者である。回答者の 22% である。

以下、分析に入るが、ここでもまた重視すべき特徴は、多くの回答項目について、卒業年次による差異は比較的小さいという事実である。つまり卒業年次の如何にかかわらず、発達科学部卒業生としての共通性が、多くの側面・要素において顕著である。

それを前提とした上で、卒業年次による差異が比較的明瞭な特徴に限ってみれば、最近の卒業生ほど学部教育・学生生活への評価が高くなっていることがわかる。

すなわちまず、教育面・学生生活面とも「たいへん満足できた」との回答が増加している。授業に関しても、「人間等への関心の深まり」、「新たな学問領域への挑戦」、「他学部にない特色」をはじめ、多岐にわたる要素で肯定的評価が増している。学生生活についても、「人間的な成長」、「就職進学情報」、「先生との交流」をはじめ、多くの要素で肯定的評価が、近年の卒業生ほど多くなっている。他大学・他学部に比べ本学部の優

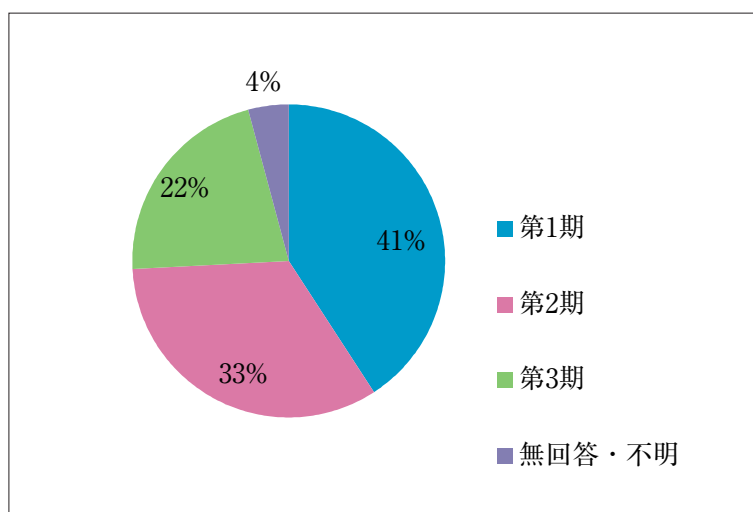


図 25 卒業時期別

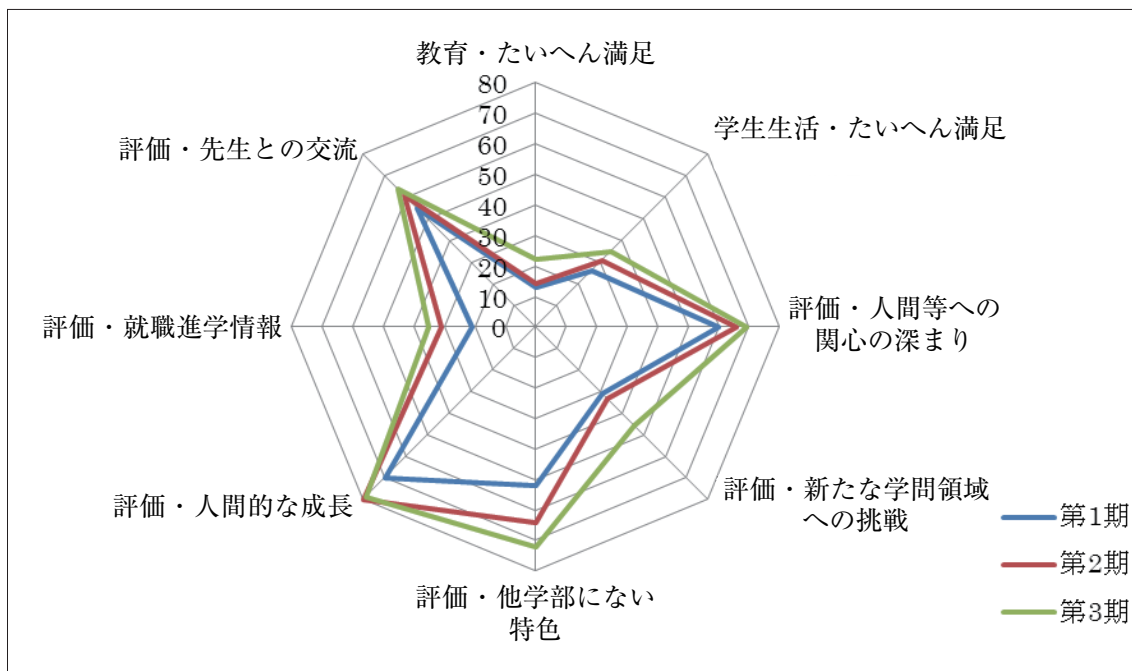


図 26 教育・学生生活満足度・評価 (%)

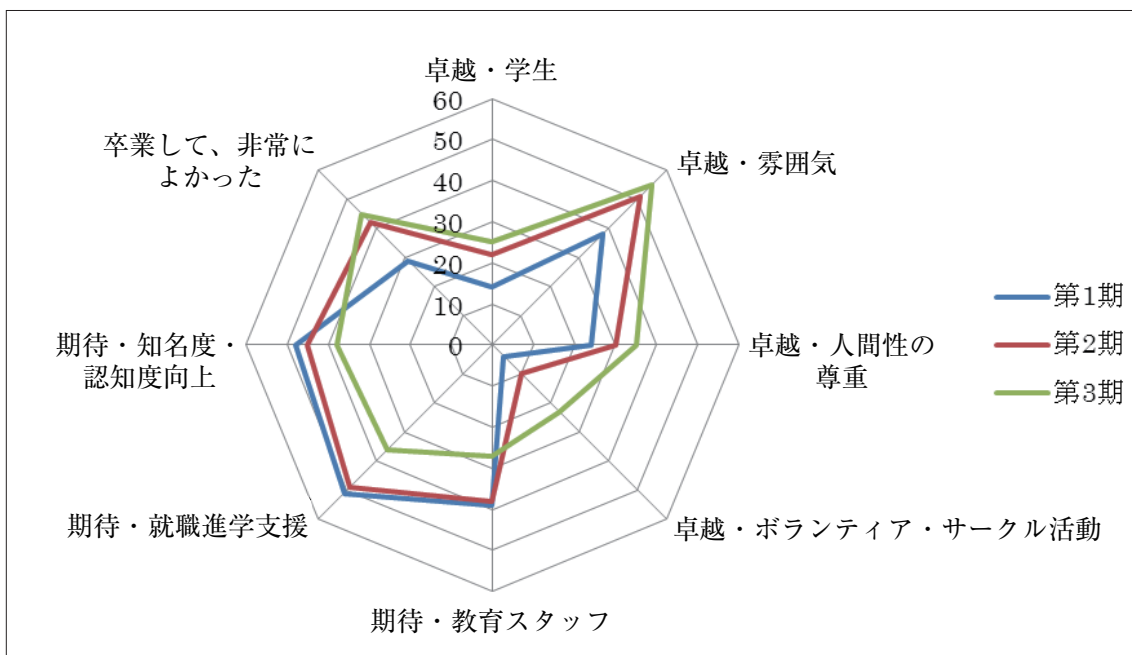


図 27 優れている点・今後の期待 (%)

れている点としては、「学生」、「雰囲気」、「人間性の尊重」、「ボランティア・サークル活動」等の要素で肯定的評価が増加している。そして「発達科学部を卒業して非常によかった」との声も、最近の卒業生ほど多い。逆に、過去の卒業生の方が評価が高く、近年の卒業生で評価が下がってきた要素は、ほとんどみられない。

今後の学部に対する期待をみても、「教育スタッフ」、「就職進学支援」、「知名度・認知度向上」等への期待は、近年の卒業生ほど減少してきている。もとよりこうした期待の減少は一概に肯定的評価とはいえない。しかし少なくとも、「改善すべき点の減少」であることは間違いない。

以上のように、近年の卒業生ほど、発達科学部の教育に対して肯定的評価が多くなっているが、そうした変化の背景には2つの可能性が考えられる。一つは、本学部の教育における経験蓄積・改善の結果、近年の卒業生ほど高い評価が得られるようになった可能性である。もう一つは、卒業後、一定期間は学部への高い評価が維持されるが、その後、徐々に評価が下がるという可能性である。

そのどちらが妥当なのかを検証するため、前回の卒業生アンケートの対象者でもあった第1期（1997年～2003年）の卒業生に限って、前回と今回の調査結果を比較してみよう（図28）。

すると第1期卒業生において、前回調査より、今回調査の方が、学部教育への肯定的評価が増している事実が明らかとなる。特に教育面での満足度が向上し、授業について

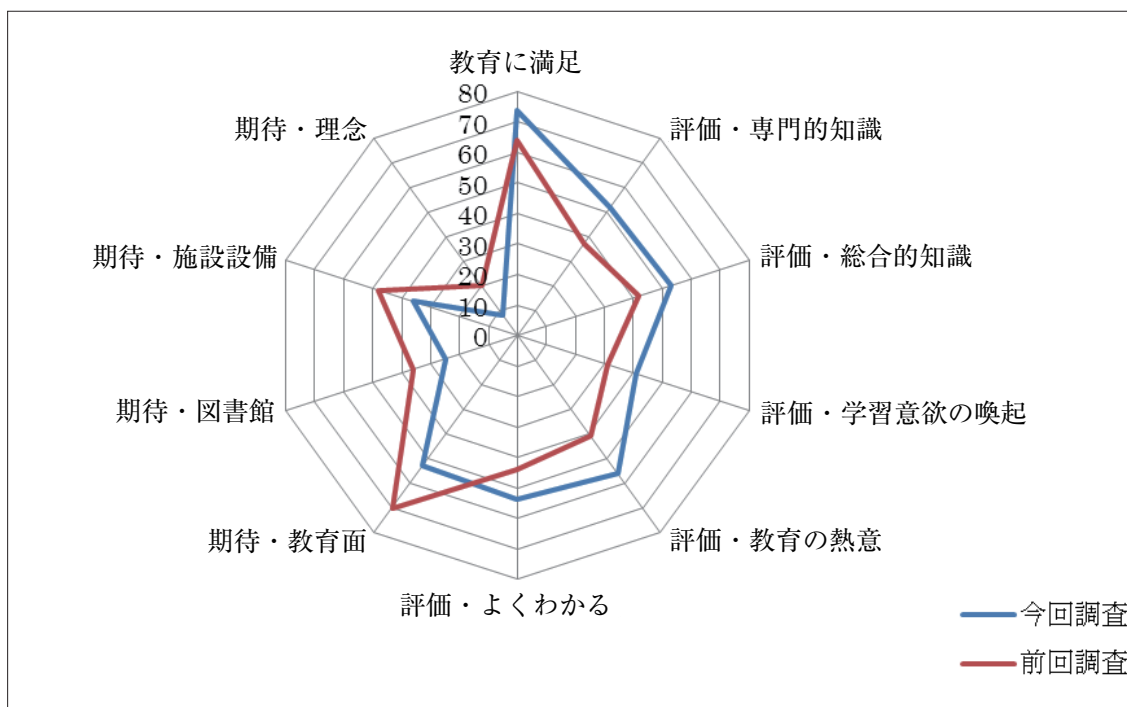


図28 教育の評価と期待（第1期卒業生・%）

も「専門的知識」、「総合的知識」、「学習意欲の喚起」、「教員の熱意」、「よくわかる」等、多くの要素において、今回の調査結果の方が肯定的に評価されていた。今後、期待することとしては、「教育面」、「図書館」、「施設設備」、「理念」等、多くの要素で課題の指摘が減少した。逆に、前回調査に比べ、今回調査で肯定的評価が減少した要素は、極めて少ない。

以上のように、第1期卒業生において、前回調査に比べ、今回調査の方が学部教育への評価が好転していた。この背景にも、次の3つの可能性が考えられる。一つは、第1期卒業生が前回調査以降、約10年間にわたる社会経験を通して、本学部の教育の価値を一層強く実感してきた可能性である。二つ目は、同じく約10年間にわたる社会経験を通して、本学部が抱える課題・問題の記憶が薄れ、過去へのノスタルジーを含めて学部への評価が高まった可能性である。そして三つ目は、前回調査の回答者に比べ、本学部の教育に特に肯定的な評価をもつ卒業生だけが今回調査に回答した可能性である（前回調査回答者は642名、今回調査回答者のうち第1期卒業生は306名）。

ただし、その3つの可能性のいずれが主たる理由であったとしても、卒業後、一定期間は学部への高い評価が維持されるが、その後、評価が下がるわけではないということが、事実として確認された。逆に卒業後、期間が経過すると、学部教育への評価は一層高くなっているのである。しかも、こうした第1期卒業生に比べ、その後の卒業生、特に最近の第3期卒業生は、本学部の教育を高く評価している。これらの諸事実をふまえれば、発達科学部の教育における経験蓄積・改善の結果、最近の卒業生ほど高い評価を得られるようになったと結論づけても、さしつかえないであろう。

なお第1期卒業生において、学部教育に対して厳しい評価が相対的に多かったことの原因を、本調査結果だけから計量的に明らかにすることはできない。ただし、本調査の自由記述回答から、次のような特徴が読み取れる。すなわち第1期卒業生は、新たに発足した日本初の「発達科学部」に多大な期待をもって入学してきた。しかし当時、発達科学部の教育はまさに模索の渦中にあり、しかも教育スタッフの中には旧教育学部との連続性・継続性を強調・重視する傾向も少なくなかった。「それぞれの先生がバラバラで一体この学部はどういった方針でどのような学生を育てたいのかわからなかった」、「何をしているか分からない、中途半端と評価されやすいです。教育学部の色が濃すぎる部分もあると思います」、「教育学部から発達科学部になって、人間に関することを総合的に学べればと思っていたが、（発達に限らず大学というものは）在籍する先生の専門の分野のことしか知りえないのだなあという印象はあった」、「広く浅く学んで教員免許を取りやすいだけだと教育学部となんら変わらない」、「私の頃は、教育学部がただ看板を変えただけで、教育学部よりも優秀な生徒が集まったにも関わらず、それを生かす授業・カリキュラムがなかった」等の厳しい指摘は、その多くが第1期卒業生から寄せられたものである。

逆に近年の卒業生で、こうした厳しい批判が減少し、学部教育に対する評価が好転してきた背景には、発達科学部としての固有の専門的・総合的教育が徐々に成熟してきたことがある。「発達科学部は社会で生きるために必要な総合力が養われる場所」、「発達科学部だからこそ、広範囲の見識を得ることができた。それは社会人となった今でも私の根本的な部分を構成している」、「教育面に偏らず、心理面をたくさん勉強できたのでよかった」、「異なった学問を専門にする人達の集まりで、発達だからこそその出会いがたくさんあった」、「非常にユニークで刺激的な環境」といった肯定的評価の自由記述は、その多くが第3期・第2期の卒業生から寄せられた。

VIII. 総括

今回の調査で得られた知見を簡単に総括しよう。

(1) 発達科学部生の多くは、人間・発達・環境等に関する専門的・総合的な知識を学び、あわせて友人・社会的視野・経験・教養を得て、自らの人間的成長を図り、将来を模索したいという強い期待・希望をもって、本学部に入學してきた。ここに、発達科学部生の特徴・「発達科学部生らしさ」、および本学部が遂行・重視すべき教育課題の原点が明瞭に示されている。

(2) 発達科学部の卒業生は、学部教育・学生生活におおむね満足している。また近年の卒業生ほど学部教育に対する評価が高くなってきている。さらに前回調査（2003年～2004年実施）に比べても、今回調査の方が学部教育に対する評価は向上している。これらの諸事実は、本学部の教育における経験蓄積・改善努力が一定の成果をあげてきていることを物語っている。またその中で特に重要な成果は、発達科学としての固有の総合的な専門性の成熟・涵養にあると思われる。

(3) ただし、発達科学としての固有の専門性の一層の深化・確立は、引き続き重要な課題であり続けている。教育内容・教育スタッフ等については、現状でも高い評価を得ているが、しかし今後への期待は一層高いという点を銘記し、現状に甘んじることなく、さらなる改善に邁進しなければならない。また就職・進学等の支援、施設・設備の拡充、国際性の促進も、今後、特に重視すべき諸課題である。しかも就職支援・国際性の促進等は、人間・発達・環境等の専門性をふまえ、それらとの関連を明確にしながら推進する必要がある。

(4) そのことは、発達科学部の卒業生が実際に社会で果たしている役割と密接に関係している。学部卒業生の多くは、「人間系」・「公共系」・「企画系」・「表現情報系」・「研究系」・「コミュニケーション系」・「経営管理系」などの仕事についている。これらの仕事内容はいずれも、本学部の教育内容と密接にかかわったものである。しかもこれらは、成熟した市民社会（big society / human community 創成）の維持・形成において特

に大きな役割を果たすことが期待・予想される職業的諸領域である。また発達科学部の卒業生は、上記の諸領域で求められる資質・能力——人間性・公共性・創造性・表現力・コミュニケーション能力等——を幅広く共有している。そこでたとえ教員として働いていなくとも、教職免許取得やそれに向けた学習が、仕事の遂行において直接・間接に生かされている。そしてこうした発達科学としての専門性は、大学院・人間発達環境学研究科での研究・高度職業人養成へと連なっている。発達科学部の卒業生の過半数が女性であるという事実も、成熟した市民社会としての男女共同参画社会の構築と深く関わっている。

(5) 発達科学部の卒業生の意識や期待には、各学科・専門系毎の違いより、むしろ学部卒業生としての共通性が大きい。ただしそうした中でも、人間形成系は「人間系」の仕事に直接かかわる専門的知識・学習環境・資格免許等を特に重視している。行動・表現系はそれらに加え、「人間等（スポーツ・芸術等）への関心」や「他学部にはない特色」を重視し、創造性・表現力を生かした仕事につく場合が多い。人間環境系は、総合的な視野の広さ、新たな学問領域の開拓、社会的視野や経験、研究の発展を強く希求し、公共性や情報発信にかかわる仕事につく場合が多い。今後、こうした多様な専門系の個性を重視・尊重しつつ、すでに卒業生の中に培われている発達科学部としての共通性を十分に自覚し、発達科学としての統合性・固有の専門性をますます明確にしていく必要がある。

神戸大学発達科学部

卒業生アンケートのお願い

2012 年 7 月 17 日

神戸大学発達科学部卒業生各位

神戸大学発達科学部長
朴木佳緒留

拝啓 時下ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

また日頃より、発達科学部に様々な御協力・御支援をいただき、心より御礼申し上げます。

さて発達科学部は、本年、創立 20 周年を迎えます。

今後ともさらなる発展をめざし、鋭意努力する所存です。

つきましては、これまでの教育の成果や課題について真摯にふりかえり、これからの教育のあり方について考えるため、卒業生の皆様にアンケート調査を実施させていただくこととなりました。

ご多忙中とは存じますが、発達科学部のさらなる発展のため、何卒御協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当アンケート用紙にご記入の上、同封させていただいた封筒にて返送をお願いいたします。

締め切りは 8 月 31 日とさせていただきます。

卒業生の皆様の御健勝・御活躍を発達科学部一同、心より祈念しております。

敬具

1 あなたが入学した学科を教えてください。あてはまるものに一つ、○をつけてください。

1992～2004年度入学の方 ①人間発達科学科 ②人間環境科学科 ③人間行動・表現学科
2005年度～入学の方 ①人間形成学科 ②人間行動学科 ③人間表現学科
④人間環境学科

2 あなたは何年何月に卒業しましたか。

(平成)年 ()月卒業

3 あなたの性別を教えてください。あてはまるものに一つ、○をつけてください。

① 男性 ② 女性 ③ 答えたくない

4 あなたは発達科学部に入学する時、本学部への進学をどの程度希望していましたか。 もっともあてはまるものに○をつけてください。

① たいへん希望していた ② 希望していた ③ どちらともいえない
④ あまり希望していなかった ⑤ まったく希望していなかった

5 あなたが発達科学部に入学した時、本学部での学習や学生生活にどのようなことを期待していましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 専門的な知識を得ること
- ② 総合的な知識・ものの見方を身につけること
- ③ 人間・発達・環境・スポーツ・芸術などへの興味・関心を深めること
- ④ 豊かな教養を身につけること
- ⑤ 社会的視野や経験を広げること
- ⑥ 国際的視野を身につけること
- ⑦ 将来について考える時間や契機を得ること
- ⑧ 人間的に成長すること
- ⑨ 部・サークル活動（全学を含む）に参加すること
- ⑩ 友人を得ること
- ⑪ 就職・進学に有益な情報や人脈を得ること
- ⑫ 大学の先生と交流すること
- ⑬ 趣味を追求すること
- ⑭ 資格・免許を取得すること
- ⑮ その他 ()

- 6 あなたにとって、本学部での授業や学生生活は満足のいくものでしたか。それぞれもっともあてはまるものに○をつけてください。

(1) 教育面（講義、演習、ゼミ、研究など）

- ① たいへん満足できた ② だいたい満足できた ③ どちらともいえない
④ あまり満足できなかった ⑤ まったく満足できなかった

(2) 学生生活全般

- ① たいへん満足できた ② だいたい満足できた ③ どちらともいえない
④ あまり満足できなかった ⑤ まったく満足できなかった

- 7 本学部で受けた授業全般について、次のようなことに対してあなたはどのように思いますか。
もっともあてはまるものを①～⑤から選び、番号に○をつけてください。

	① 非常に多かった	② 多かった	③ どちらともいえない	④ 少なかった	⑤ ほとんどなかった
1. 専門的に深みのある授業	1	2	3	4	5
2. 総合的な知識・ものの見方が身につく授業	1	2	3	4	5
3. 人間・発達・環境・スポーツ・芸術等への興味・関心が深まる授業	1	2	3	4	5
4. 豊かな教養が身につく授業	1	2	3	4	5
5. 国際的視野が広がる授業	1	2	3	4	5
6. 新たな興味・関心が喚起される授業	1	2	3	4	5
7. 学習意欲が喚起される授業	1	2	3	4	5
8. 新しい学問領域を開拓する意欲が喚起される授業	1	2	3	4	5
9. 他学部にはない特色ある授業	1	2	3	4	5
10. 少人数・対話型の授業	1	2	3	4	5
11. 就職・進学に役立つ授業	1	2	3	4	5
12. 仕事・研究に役立つ授業	1	2	3	4	5
13. 先生の熱意が感じられる授業	1	2	3	4	5
14. 内容がよくわかる授業	1	2	3	4	5

- 8 本学部での学生生活について、次のようなことに対してあなたはどのように思いますか。もっともあてはまるものを①～⑤から選び、番号に○をつけてください。

	① 非常に思う	② 思う	③ どちらともいえない	④ あまり思わない	⑤ まったく思わない
1. 社会的視野や経験を広げることができた	1	2	3	4	5
2. 将来の目標を見つけることができた	1	2	3	4	5
3. 人間的に成長できた	1	2	3	4	5
4. 充実した部・サークル活動（全学も含む）ができた	1	2	3	4	5
5. よい友人を得られた	1	2	3	4	5
6. 就職・進学に有益な情報や人脈を得ることができた	1	2	3	4	5
7. 大学の先生と交流を深めることができた	1	2	3	4	5
8. 趣味を追求できた	1	2	3	4	5
9. 資格・免許が取得できた	1	2	3	4	5
10. 国際的な視野を持つようになった	1	2	3	4	5

- 9 本学であなたが学んだ内容は、現在、あなたの仕事において役に立っていると思いますか。もっともあてはまるものに○をつけてください。

- ① 直接に役立っている ② 間接的に役立っている ③ どちらともいえない
④ あまり役立っていない ⑤ まったく役立っていない

- 10 あなたは本学部在学中、教職免許を取得しましたか。

- ① 取得した ② 取得しなかった

☐ ①と答えた人にお聞きします。教職免許やそこで学習したことは、現在のあなたの仕事や生活において役に立っていると思いますか。もっともあてはまるものに○をつけてください。

- ① 直接に役立っている ② 間接的に役立っている ③ どちらともいえない
④ あまり役立っていない ⑤ まったく役立っていない

11 発達科学部が他大学や他学部 비해、優れているとあなたが思うところはどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 教育面（講義、演習、ゼミ、卒業研究など）
- ② 教育スタッフ（教員、ティーチング・アシスタントなど）
- ③ 学生
- ④ 図書館
- ⑤ 施設・設備
- ⑥ 立地条件
- ⑦ 雰囲気
- ⑧ 就職・進学の有利さ
- ⑨ 人間性の尊重・重視
- ⑩ 学部の理念・教育方針
- ⑪ ボランティア・サークル活動
- ⑫ 国際性
- ⑬ 学生への配慮・サービス
- ⑭ その他（ ）

12 発達科学部の今後に期待することは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 教育面（講義、演習、ゼミ、卒業研究など）の改善
- ② 教育スタッフ（教員、ティーチング・アシスタントなど）の充実
- ③ 図書館の充実
- ④ 施設・設備の充実
- ⑤ 立地条件の改善
- ⑥ 雰囲気の改善
- ⑦ 就職・進学への支援の改善・充実
- ⑧ 人間性の尊重・重視
- ⑨ 学部理念・教育方針の見直し・改革
- ⑩ ボランティア・サークル活動の拡充
- ⑪ 国際性の促進
- ⑫ 学生への配慮・サービスの改善・充実
- ⑬ 研究の進展
- ⑭ 卒業生へのサービスの改善・充実
- ⑮ 発達科学部の認知度・知名度の向上
- ⑯ その他（ ）

13 あなたは、現在あるいは将来において、人間発達環境学研究科（大学院）で学習や研究をしたいと考えますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ① 思っている ② わからない ③ 思わない
④ 同研究科（または総合人間科学研究科）を修了した、もしくは、在学中である

14 あなたの現在の仕事についてお聞きします。あなたは、現在何かお仕事をしていますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ① 常勤（自営も含む） ② フリーランス・非常勤 ③ パート・アルバイト・派遣
④ 大学・大学院（専門学校等も含む）に在学中 ⑤ とくに働いていない

☐ ①～③を選んだ方にお聞きします。あなたの現在の職業は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

（ 例1：(2)公務員で、(4)農林水産業の、(3)研究・技術
例2：(8)NPO/NGOで、(17)広報・宣伝、(15)企画、および(13)管理職 ）

- | | | | |
|-------------|----------------|-----------|------------|
| (1)教員 | (2)公務員(教員以外) | (3)研究・技術 | (4)農林水産業 |
| (5)自営商工業 | (6)事務 | (7)自由業 | (8)NPO/NGO |
| (9)起業者・企業経営 | (10)営業・販売 | (11)情報産業 | (12)サービス職 |
| (13)管理職 | (14)マスコミ・出版・広告 | (15)企画 | (16)経理・財務 |
| (17)広報・宣伝 | (18)総務 | (19)生産・製造 | (20)国際関係 |
| (21)福祉関係 | (22)人事・教育 | (23)その他（ | ） |

15 あなたは、神戸大学発達科学部を卒業して、よかったと思いますか。もっともあてはまるものに○をつけてください。

- ① 非常に思う ② 思う ③ どちらともいえない
④ あまり思わない ⑤ まったく思わない

16 本アンケート、あるいは、発達科学部に対してのご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました